

第15回おいしい水づくり推進懇話会次第

日時 平成25年8月30日（金）

午後2時～午後4時

会場 千葉県水道局幕張庁舎2階特別会議室

1. 開会

2. 水道局長挨拶

3. 構成員紹介

4. 座長・副座長の選任

5. 座長挨拶

6. 議題

(1) 平成25年度おいしい水づくり計画の各施策について

- ① 残留塩素低減化
- ② オフィシャルサイト
- ③ ウォーターメイト
- ④ 水道出前講座
- ⑤ トリクロラミン調査
- ⑥ 高度浄水処理の導入

(2) 受水槽内塩素消費量実態調査

7. 懇談

8. その他

9. 閉会

第15回おいしい水づくり推進懇話会議事録（要旨）

【残留塩素低減化】

- (構成員) 送水先の団体で、塩素が確保できない恐れがあり低減化できなかった、とのことだが、それはどういうことなのか。
- (事務局) その団体は構成市町の水道事業体に水を供給している。当局の配水管からその団体の管に分岐して、そこから水道事業体の配水池に入れており、不足分の塩素を追加注入（追塩）する施設を所有していないと聞いている。
- (構成員) 追塩施設は造れないのか。
- (事務局) 団体に配水池を造ってからとなるため、相当な設備投資となり、かなり難しいのではないかと。
- (構成員) 他の水道事業体で、塩素注入量を季節ごとに変えていると聞いたが、千葉県水道局でも同様のことを行っているのか。
- (事務局) 当局でも、浄・給水場からの送水時の残留塩素濃度を、水温により年4段階に分けて管理している。
- (構成員) 残留塩素濃度の管理値は、高度浄水処理を導入した時点で下げられるか。
- (事務局) 調査を実施してからとなる。
- (構成員) 残りの期間で、目標値に向けた更なる低減化を進めるのか、進められるのか、あるいは見直すのかについて考えていく必要がある。
- (構成員) 更なる低減化には何が必要か考える必要がある。低減化による影響についても考える必要がある。

【高度浄水処理の導入】

- (構成員) 高度浄水処理導入はまだ100%ではないとのことだが、今後の計画は。
- (事務局) 導入されていないのは柏井浄水場西側施設、栗山浄水場、北総浄水場の3箇所、柏井浄水場西側施設は実施計画に入っている。栗山浄水場は老朽化に伴い、ちば野菊の里浄水場に移転し、併せて導入する予定である。北総浄水場にも導入していく予定であるが、その時期は未定である。
- (構成員) 栗山浄水場はちば野菊の里浄水場へ移転するとのことだが、移転後の栗山浄水場の跡地はどうなるのか。
- (事務局) 移転後については、今後、検討していく予定である。
- (構成員) 高度浄水処理はいつまでに建設する予定なのか。
- (事務局) 施設（浄・給水場、配水管）の更新時期を迎えているので、財政的な面などのバランスを考えながら進めていきたいと考えている。

(構成員) 柏井浄水場西側施設への高度浄水処理施設導入の延期は、おいしい水づくり計画の目標達成に影響はないか。

(事務局) おいしい水づくり計画の目標達成に向けた施策の中で、残留塩素低減化が主要な取組みと考えている。高度浄水処理の導入もおいしい水づくりに関係するが、影響はない。(延期前も、高度浄水処理完成予定が目標年度以降であった。)

(構成員) 残留塩素を下げるためには有機物を減らす必要があり、そのためには高度浄水処理は必要ではないか。

(事務局) 高度浄水処理は有機物を減らすのに有効である。しかし、高度浄水処理が導入されていない浄水場では、粉末活性炭の注入処理で対応している。当局では、トリハロメタンのもととなる有機物やかび臭物質を除去するため、原水の状況に応じた適正な量を注入して対応している。

また、高度浄水処理は、昨年度の河川水質事故時に有効であったように、安全安心を確保するという意味で有効であると考えます。

(構成員) 高度浄水処理の導入については、おいしい水づくりの施策として進めるのか、別の目的として進めるのかで切り分けなければならない。ただし、高度浄水処理の導入が塩素消費量の減少に影響するとも考えられるので、その効果について整理することも必要かと考える。

(構成員) おいしい水でも、安全性については考えていかなければいけない。

【受水槽内塩素消費量実態調査】

(構成員) 配水管や受水槽内での残留塩素減少の要因は。

(事務局) 水道水中の有機物と言われている。水温も影響する。

(構成員) 配水管と受水槽で減少要因に違いはあるのか。

(事務局) 調査中であるが、違いは無いと想定している。共に水温と滞留時間で決まってくると考えている。

(構成員) この調査で何か新しい発見はあったか。

(事務局) 受水槽について、材質（FRPとコンクリート）によって残留塩素減少に差が出ると想定していたが、現時点では確認されていない。

(構成員) コンクリート製受水槽は内部コーティングしているのか。

(事務局) 今回の調査に使用している受水槽は、コーティングしていない。

(構成員) 残留塩素の低減化のため、受水槽までの残留塩素濃度を減らす取組みなどは行わないのか。

(事務局) 末端での残留塩素の状況確認しながら、浄・給水場での残留塩素の低減化をしていくしかない。

【その他】

- (構成員) 残りの年数で、見直す時に何を中心にしていけば良いかや、残留塩素やトリクロロミンはどうなるのか、どこまで施策として進めていけるのか確認したいと考えている。
- (構成員) 特に夏場であるが、水道水が臭いと感じる時がある。
- (事務局) かび臭の原因物質である 2-MIB やジェオスミンは、高度浄水処理では 1ng/L 以下、粉末活性炭では 3ng/L 以下で管理している。しかし、敏感な方は塩素と一緒になったときに感じやすいと言われている。塩素濃度が高い場合には、特に感じやすくなる。
- (構成員) 水道水はおいしいということについて、もっと PR して欲しいが、何か戦略みたいなものはあるのか。
- (事務局) 水道出前講座を増やすため、チラシを配ったり、給水区域内の市役所などと連携して、宣伝していきたいと考えている。